くるぶし

2020年 黒石市勢要覧

目 次

CONTENTS

沿革、発刊にあたって …… 2
市民憲章、黒石市民の歌 …… 3
施策紹介 …… 4
黒石市の花・木・鳥、姉妹都市 …… 7
議会、行政機構図 …… 8
黒石の名物 …… 9
黒石の四季 …… 10
黒石市の名所マップ …… 12
黒石市のあゆみ …… 14

沿 革

昭和29年7月1日に黒石町のほか4村が合併し、県内で4番目の市制を施行。後に尾上町の一部を編入し現在に至ります。

国道102号と東北縦貫自動車道黒石インターチェンジ、さらには県土を横断する国道394号を擁し、至近距離に青森空港があるなど、交通の要衝としての役割も増大しています。

古くから「米とりんごと温泉の田園観光都市」として親しまれ、平成17年には「中町こみせ通り」が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されるなど、城下町の風情を残した町並みや建造物が高く評価されています。

発刊にあたって

黒石市長
髙 樋 憲

黒石市は、青森県のほぼ中央に位置し、三方に津軽平野、東に八甲田連峰が連なる自然と豊富な温泉に恵まれ、味の良い「黒石米」と「黒石りんご」の産地として知られている古くからの城下町です。

また、十和田湖の西玄関口にあたり、青森空港や東北新幹線新青森駅まで約40分と観光地へのアクセスにも優れ、四季の彩豊かな魅力ある「田園観光産業都市」を目指しております。

今、地方自治体は、人口減少克服に向けた対策や地域が自立的に持続可能な社会を作り出すことが求められております。このような中、私は、市民が誇りと自信を持てる「誇れる故郷、黒石市」の実現に向け、「元気な黒石」、「安心な黒石」、「自立した黒石」の3つを柱に掲げ、黒石市が誇る多くの地域資源や黒石力（＝コミュニティ力）を最大限に生かしたまちづくりに取り組んでまいります。

この市勢要覧が、本市の魅力や施策などをご理解いただく一助になれば幸いです。

市民憲章

黒石市は、えぞ地であった昔から、水清く人情のあついあずましの里として栄え、「米とりんごといで湯」を誇り、「よされ、ねぷた」を愛してきたまちです。

わたくしたちは、これまでつちかわれてきた郷土の文化をさらに高め、豊かで活気にみなぎる黒石市の実現を願って、ここに市民憲章をかかげます。

わたくしたちは

一　ふるさとを愛し、水と緑を生かす
　　さわやかなまちをつくります。

一　心のぬくもりをひろげ、未来をはぐくむ
　　ふれあいのまちをつくります。

一　からだをきたえ、働くことに喜びをもつ
　　すこやかなまちをつくります。

一　歴史をあたため、かおり高い文化を築く
　　学びあうまちをつくります。

一　豊かな郷土をめざし、創意と活力に満ちた
　　のびゆくまちをつくります。

（昭和59年７月１日制定）

黒石市民の歌

一　青い山並　目にしみて　流れさやかな　津軽野の
　　東ゆたかに　幸多し　生きがいのある　この街に
　　未来をひらく　虹かかる　ああわれら　若い力の黒石市民

二　りんごの花の　咲く丘の　匂いただよう　わが里に
　　老いも若きも　笑顔もつ　湯の香人の和　この街に
　　未来をひらく　汗光る　ああわれら　築く力の黒石市民

三　かおる歴史の　ふく風に　稲田みのりて　黄金しき
　　ねぷたよされの　にぎわしく　高き文化の　この街に
　　未来をひらく　いのりあり　ああわれら　伸びる力の黒石市民

（昭和58年１月１日制定）

≪市章・ふつ≫

《市章》

黒石藩の旗印と替紋。明治22年から黒石町が町章として用いたものを、市制施行後もそのまま採用。古くは、中国の春秋時代（約2,500年前）の頃、公服に使われた階級12章の一つにふつ（星の意）があったといわれています。

黒石のお米

農 業

基幹作物である米とりんごに加え、高冷地野菜、ビニールハウス等の施設園芸を行っています。

寿司専米「ムツニシキ」や「牡丹そば」、「黄美香メロン」、「シャインマスカット」などのブランドの確立、施設野菜と施設園芸の拡大、若手農業者や女性農業者の育成確保、農福連携の推進、さらに６次産業化・農商工連携を推進し地元の農産物を利用した加工品の開発・販売等の「食ビジネス」創出による新たな産業づくり等、特色のある地域農業に取り組んでいます。

また、青森県の農業技術の中核を担い、農林総合研究所と全国唯一のりんご研究所が配置されている地方独立行政法人青森県産業技術センターとの「連携・協力に関する協定」を締結したことにより、農業の振興と地域の活性化が期待されます。

商業・工業

中心市街地の活性化を図るため、新たな拠点の整備や遊休資産を活用し、新規出店を支援している他、賑わい創出を促すイベントへの支援など、商業の活性化に取り組んでいます。

歴史と伝統に育まれた地酒や黒石ならではの銘菓、伝統工芸品など多くの特産品がある中で、新商品開発や物産展等への出店を支援するなど、地場産品の販路拡大を推進しています。

また、青森空港や東北自動車道へのアクセスに便利な立地環境を生かし、物流の効率化と拠点化を図るため、黒石インターチェンジ付近への企業立地を推進しています。

急速に進む人口減少社会における若者の地元定着と労働力の確保に向けて、学生やＵＩＪターン希望者の地元就職を支援する企業ガイドによる情報発信や企業見学会などを行う他、女性やシニア世代も活躍しやすい環境づくりに取り組んでいます。

物流拠点化を目指す黒石 IC ロジスティクスクロッシング

除雪作業

都市基盤

都市基盤は、安全・景観・環境に配慮した整備を進め、効率的な維持管理を行っています。

主要事業として、橋梁の長寿命化修繕計画に基づく維持修繕やこみせ通りの電線類の地中化、幹線道路である黒石環状線の整備に着手しています。また、積雪による社会活動等に及ぼす影響を抑制するため、融雪溝の整備推進やきめ細やかな除雪作業に取り組んでいるとともに、普及率92.5%の上水道は老朽管更新、普及率56.4%の下水道は整備拡大により、生活環境の改善や自然環境の保全に努めています。

その他、平成27年には観光・コミュニティ・地域防災の拠点として、松の湯交流館を開業するとともに、「景観計画」を策定し、黒石らしい良好な景観を保全・形成することにより、地域の魅力を総合的に高め、活力と賑わいあるまちづくりを推進しています。

健康都市宣言市民のつどい

乳幼児健診

保 健

健康長寿市を目指し、母子保健や成人保健全般に係る施策を実施しています。

妊婦健診や乳幼児健診の充実、予防接種の促進、安心して妊娠・出産・育児をすることができるための支援強化等に努めており、さらに生活習慣病予防のため家庭における食育や小学校での食育の授業を実施し、適切な食習慣の推進を図っています。

また、疾病の早期発見・早期治療のために健康診査や保健指導、健康教育、運動教室等を通し生活習慣の正しい知識の普及を図ることで、生活習慣病の発症および重症化予防に努め、生涯にわたり健康意識の向上を推進しています。

福 祉

市民誰もが安心・安全に暮らせるように、市民の福祉サービスに対するニーズの多様化や質的向上を踏まえながら、福祉サービスの充実を図っています。

少子高齢化が急激に進む中、保育サービス・放課後児童対策・各種手当給付の充実を図り、安心して子供を産み・育てられる環境の整備に努めるとともに、児童虐待やＤＶの撲滅に取り組んでいます。

また、高齢者や障がいのある方が住み慣れた地域で、健康で生きがいのある生活を送れるように各種事業を実施し、福祉・医療など様々な面から総合的に支える地域ケアの充実を図っています。

さらに、昨今の経済・雇用情勢の悪化を背景とした失業等による生活困窮者に対して、経済的自立や社会生活自立を支援するプランを作成し、安定した生活を送れるように柔軟な支援策を推進しています。

児童館

浅瀬石川クリーン運動

環境衛生

循環型社会の構築を目指し、分別によるごみの減量化やリサイクル率向上に取り組み、環境負荷が少ないまちづくりを推進しています。資源ごみを各町内ステーションで収集している他、24時間、365日利用できる資源物収集ステーションを市役所や地区公民館などに設置し、資源ごみ排出の利便性向上を図っています。

環境省が主催する「プラスチック・スマート」に賛同し、「二酸化炭素排出抑制」や「石油資源の節約」が期待できるサトウキビの廃糖蜜を利用した植物由来ポリエチレン原料配合のごみ袋を市指定ごみ袋として使用するなど「低炭素社会構築の啓蒙」に取り組んでいます。

また、地域の環境美化のため、春、秋の年２回、市民に参加を呼びかけて清掃活動を実施しています。

小学校の授業

教 育

知・得・体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成するために、個を生かし生きる力と夢をはぐくむ学校教育を推進しています。

各学校では、急速な情報化や技術革新が進む現代社会と向き合い、児童生徒に応じたきめ細やかな指導や支援に努め、新しい時代を切り拓いていく人づくりを目指して教育活動に取り組んでいます。

今後とも生きる力の基盤となる「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視し、「知識および技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成を目指します。

文化・文化財

古くから文化のまちとして栄え、多くの著名な文化人を輩出しています。

毎年、盛況に開催される「市民文化祭」は、市民が主体となって創り上げる「文化のまち・くろいし」を象徴しています。

また、黒石陣屋を中心に栄えた本市には、重要伝統的建造物群保存地区に選定された「中町」や国の重要文化財「高橋家住宅」など、貴重な文化財が多数存在しています。

「大石武学流」という、津軽地方独自の様式で作庭された「金平成園（澤成園）」は、優れた史料価値を持つことから名勝に指定されており、本市を代表する文化財の一つとなっています。４月中旬～11月末まで一般公開しており、中町伝統的建造物群保存地区や「高橋家住宅」などとともに守り継がれています。

名勝　金平成園（澤成園）

黒石市民運動会

スポーツ

（公財）黒石市体育協会と連携し、スポーツ施設の環境整備の充実を図っているほか、市民一人ひとりがライフスタイルに応じ、気軽に参加できる各種スポーツの普及に努め、「１市民１スポーツ」の実現を目指しています。

スポカルイン黒石では、フィットネス指導の資格を有する職員による適切な指導や、アリーナ２階を健康ウォークの場として無料開放し、市民が余暇を活用して心地よい汗を流しながら健康維持・増進に励んでいます。

また、（公財）黒石市体育協会には、現在24のスポーツ団体が加入しており、誰でも気軽にスポーツの体験ができるような受入体制をとっています。

黒石市の花・木・鳥

りんご

先人のさまざまな苦労の歴史に支えられて、りんごの主産地を形成してきました。全国唯一のりんご専門の研究所があり、研究のメッカでもあります。秋になるとおいしい実をつけるその白く可憐な花は、広く市民に親しまれています。

もみじ

『かえで』の通称。中野山は、京都の嵐山に対して小嵐山と呼ばれるなど、藩政時代から有名なもみじの名勝で、樹齢約200年のもみじ3本が市天然記念物に指定されています。また、もみじの一種『イタヤカエデ』は、温湯こけしの材料としても使われ、なじみが深い木です。

セグロセキレイ

浅瀬石川で四季を通じてよく見られ、きれいな流れを好む留鳥で日本固有種。春夏の子育て期には、人家にも近づき、尾をいつも上下に振る仕草は愛敬があります。『セグロ』のクロが黒石にも通じ、水清く豊かな自然のシンボルとして親しまれています。

黒石市の姉妹都市

三陸復興国立公園「浄土ヶ浜」

岩手県 宮古市

宮古市は、本州最東端に位置し、黒潮と親潮の交差する三陸沖を漁場として、古くから沿岸漁業が栄えた岩手県を代表する港町で、人口は令和２年４月１日現在で51,150人。

東は太平洋に面し、他の三方を北上山系の山々と丘陵に囲まれ、山間を流れる閉伊川、津軽石川などが太平洋に注いでいます。さらに、自然が織りなす雄大な沿岸美と青く澄んだ海とのコントラストが美しい三陸復興国立公園「浄土ヶ浜」は、国の名勝に指定されています。

また、四季を通して新鮮な魚介類が豊富で、特にサケ類の漁獲量では、国内有数の水揚げ量を記録しています。

永川市「普賢山天文台」

大韓民国 慶尚北道 永川市

永川（ヨンチョン）市は、韓国の南の玄関口である釜山（プサン）市から約100㎞北、新羅時代の都・慶州（キョンジュ）市と、韓国第三の都市大邱（テグ）市のほぼ中間に位置することから、交通の要衝となっている都市です。主要産物は米・りんご・ぶどう・桃・なし・たまねぎ・にんにくなどで、特にぶどうは慶尚北道（キョンサンブクド）有数の生産量を誇っています。

人口は令和２年４月時点で101,828人となっています。

議 会

工藤和子　議長

今　大介　副議長

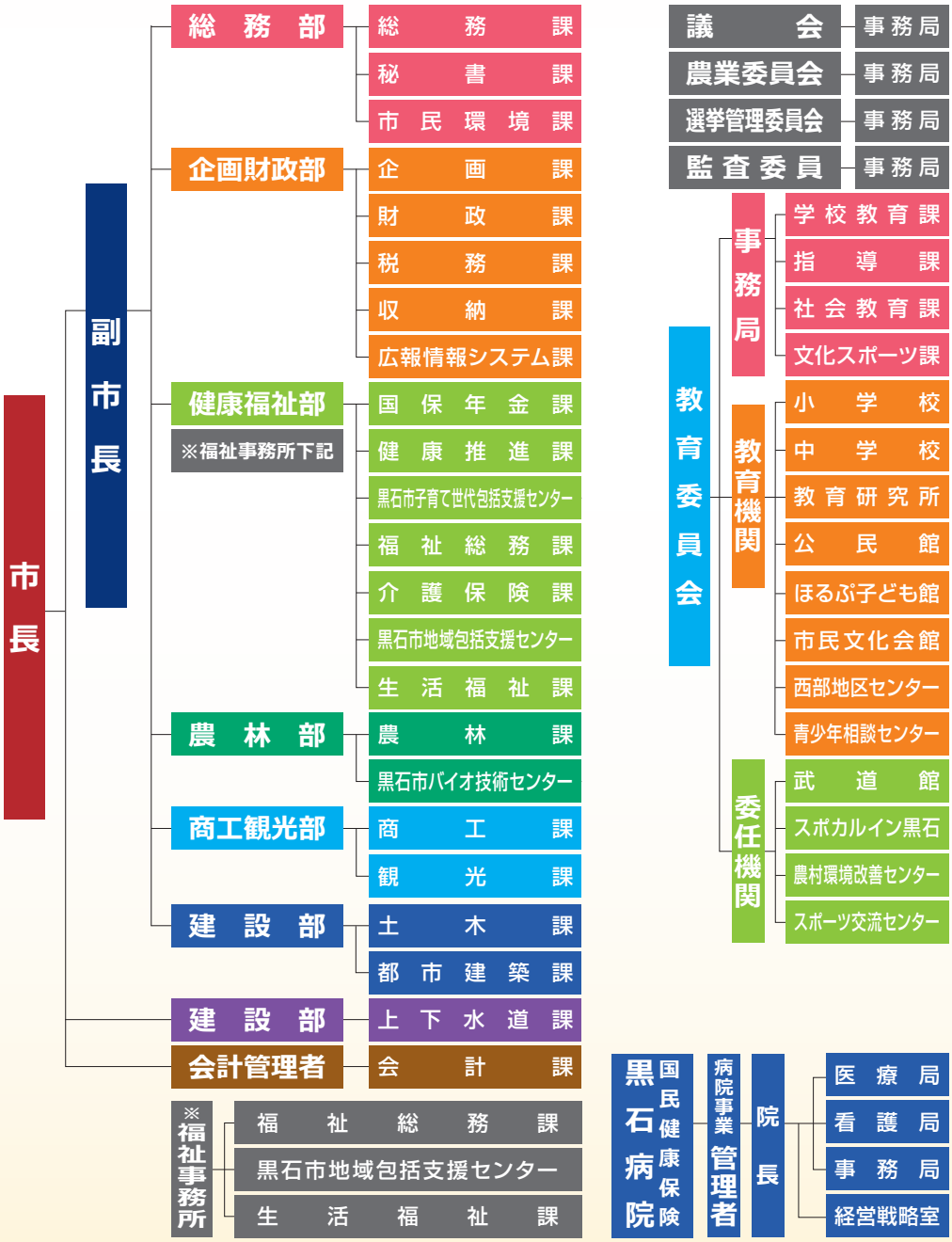
黒石市議会は市の意思を決定する議決機関であり、4年ごとの選挙で選ばれた16人の議員で構成されています。

議会は年4回開かれる定例会をはじめ、必要に応じて開催される臨時会があり、まちづくりを進めるための一般会計・特別会計・企業会計の予算、決算のほか、条例、工事の契約、用地の取得などの重要な議案を審議し議決します。

また、議会を円滑に進めるための議会運営委員会と本会議から付託された議案や市民からの請願、陳情などを審査、調査するための総務教育、経済建設、民生福祉の3つの常任委員会が設置されています。

行政機構図

令和2年4月1日現在



黒石の名物

本市には、恵まれた自然の素材を生かした加工品の他、昔から親しまれる太平麺のやきそばやつゆやきそば、伝統に培われてきた津軽系こけしなど多くの名物があります。

【黒石つゆやきそば】

【黒石やきそば】

【津軽系こけし】

【りんご加工品】

【黒石の地酒】

【黒石のお菓子】

春

雪解けとともに柔らかな日ざしが津軽を覆うと、桜やカタクリなどが美しく咲き誇り、人々の心を豊かにしてくれます。そして春田の頃、市の花「りんご」の白く可憐な花が、里山いっぱいに咲き乱れます。

黒石さくらまつり

黒石さくらまつりは、桜の名所である東公園で４月後半に開幕します。期間中は、家族連れや多くの花見客でにぎわいます。

黒石ねぷたまつり

黒石ねぷた祭りは、約50台の運行台数で、笛・太鼓・鉦の勇壮な囃子と、「ヤーレヤーレヤー」の勇ましい掛け声で扇ねぷたと人形ねぷたが出陣します。期間中、街は熱気であふれ、ねぷた一色に彩られます。

黒石よされ

日本三大流し踊りの一つである黒石よされは、廻り踊り、流し踊り、組踊りの３つの踊りで構成されています。そろいの浴衣を着た踊り手約2,000人が、情緒あふれるこみせ通りなどを華麗な踊りで練り歩きます。

夏

山あいの渓流は澄み渡り勢いを増し、力強く流れ落ちる中野もみじ山の不動の滝は心地よい涼風を生みます。また、心躍る「ねぷた」や「よされ」の祭りの熱気が街全体を包み込み、市民のエネルギーが最高潮に燃え上がります。

秋晴れの下、黄金色に染まり頭をたれた稲穂「黒石米」と、真っ赤に輝く「りんご」の収穫が最盛期となります。中野もみじ山の紅葉も鮮やかな色彩を放ち、行楽シーズンも最盛期を迎えます。

秋

中野もみじ山

県内随一のもみじの景勝地として知られる中野もみじ山は、京都の嵐山になぞらえて小嵐山とも呼ばれ、例年多くの観光客が訪れます。紅葉期間中はライトアップも行われ、神秘的な雰囲気を演出します。

黒石りんごまつり

りんごの収穫をほぼ終えた11月、スポカルイン黒石を会場に黒石りんごまつりが開催されます。りんごや地場産業の展示・即売をはじめ、健康や福祉などの各種相談コーナーなども充実し、盛りだくさんの内容となっています。

の四季

旧正マッコ市

毎年２月の第１日曜日に開催される旧正マッコ市は、黒石の名物行事として、夜明け前から賑わいを見せます。市内各商店で買い物をすると〝マッコ〟（景品）がもらえることからたくさんの人たちが訪れます。

霜花の朝、雪が街の美しさを醸し出してくれます。冬景色の中に見え隠れする「こみせ」は、藩政時代の面影を感じさせ、幻想的な世界を創りだします。また、街中に雪だるまが顔をだし、行き交う人を和ませます。

冬

黒石市の名所マップ

【金平成園】（澤成園）

金平成園は、別名「澤成園」で知られており、「大石武学流（武学流）」と称される流派で作庭された庭園です。幕末から近代にかけて、津軽地方を中心に広まった大石武学流の作風を良好に伝える庭園であり、初期の大石武学流を理解するうえで重要な庭園であることから、平成18年に名勝に指定されました。

平成27年度からは一般公開が行われ、多くの人が美しい庭を見に訪れています。

【中町伝統的建造物群保存地区】

江戸時代の町割りでできた中町は、旅人や商人が行きかう商家町として栄え、「こみせ」と呼ばれる木製の庇（ひさし）が建てられました。「こみせ」は日差しや雨、雪から人々を守り、快適に往来するために欠かせないものでした。

中町には「こみせ」が連なった町並みが現在も良好な状態で残されている他、国の重要文化財「高橋家住宅」や造り酒屋など、築200年以上の建物が立ち並び、いにしえを彷彿させてくれます。

【りんご史料館】

全国唯一のりんご試験場（現研究所）は、昭和６年イギリスのイーストモーリング研究所を模して建設され、歴史的にも価値のある建造物です。

昭和43年の建て替え時に、試験場の旧庁舎を利用して「史料館」を開館。平成14年秋に、リニューアルオープンしたクラシックな趣の同館は、これまでの試験研究の成果や、青森りんごの歴史を学ぶことができる他、観光や学習の場としても活用できます。

【中野もみじ山】

中野もみじ山は、享和２年（1802年）弘前藩主津軽寧親公が京都から百余種の楓苗を取寄せ、翌年移植したことが始まりで、それから、京都の紅葉名所である「嵐山」に対して、「小嵐山」と呼ばれるようになったと伝えられています。毎年、紅葉の季節になると県内外から多くの観光客が訪れるほど、紅葉の名所として有名です。夜にはライトアップも行われ、日中とは別の景色を見ることができます。また林中には、中野神社・不動館跡があり、津軽三不動尊の一つがまつられています。

【黒石温泉郷】

黒石温泉郷には、温湯・落合・板留・青荷などがあり、それぞれ個性豊かな成分の源泉に恵まれています。いで湯の里として知られ、昔から湯治場として多くの人に親しまれてきました。

中でも、ランプの宿で有名な青荷温泉は、八甲田連峰の山々に囲まれた山峡の秘湯といわれ、昭和６年に歌人・丹羽洋岳が住みついて開拓。青荷渓流のせせらぎを聞きながら露天風呂を楽しめるなど、自然の織りなす四季の情緒を楽しめます。

【津軽伝承工芸館】

津軽伝承工芸館は、津軽の伝統的な文化を伝える観光施設です。

施設内にある各工房では、約300年の歴史を誇る伝統工芸「津軽塗」などの職人たちによる実演が行われ、津軽の風土と文化、そして匠が織りなす伝統工芸を身近に「見て」「触れて」「体験」することができます。

また、中央のこみせ広場には、天然温泉を利用した足湯が設けられ、老若男女問わず、ゆっくりと足湯を楽しむことができます。

【津軽こけし館】

昭和63年にオープンした津軽こけし館は、津軽系温湯こけしの創始者盛秀太郎翁の作品をはじめ、全国から収集したこけしを含む約4,000点の木地玩具や、各界の著名人が絵付けした「こけしアートコレクション」などが展示されています。

館内では、こけし制作の実演を見学できる他、予約でこけしの絵付け体験をすることもできます。

また、季節ごとにイベントや特別展を開催しています。

黒石市のあゆみ

▼昭和 29 年（1954）
7月1日　市制施行（人口39,044人、面積213.40㎢）、県内４番目の市として誕生

▼昭和 30 年（1955）
7月1日　『市報くろいし』創刊
9月3日　黒石開藩300年祭

▼昭和 31 年（1956）
10月1日　尾上町の一部を編入合併
11月1日　市立黒石病院完成

▼昭和 33 年（1958）
9月10日　黒石温泉郷が県立自然公園に

▼昭和 34 年（1959）
12月17日　秋田徳三（雨雀）、宇野要三郎の両氏を名誉市民に推挙

▼昭和 36 年（1961）
3月24日　厚生省が上水道の経営を許可

▼昭和 37 年（1962）
2月20日　黒石地区清掃施設組合が事業認可

▼昭和 38 年（1963）
1月21日　上水道の給水を開始

▼昭和 40 年（1965）
12月31日　山形町の流雪溝完成

▼昭和 41 年（1966）
4月1日　岩手県宮古市と姉妹都市を締結
4月15日　黒石病院開院（北美町）
7月26日　集中豪雨で千歳橋決壊
8月1日　皇太子殿下ご夫妻来黒

▼昭和 42 年（1967）
4月1日　黒石東小学校設立・校舎完成

▼昭和 43 年（1968）
12月28日　市庁舎、中央公民館落成

▼昭和 45 年（1970）
5月2日　もみじ学園設立

▼昭和 46 年（1971）
4月1日　黒石地区消防事務組合発足
浅瀬石川ダム調査事務所発足
9月30日　中郷公民館完成
10月5日　米国ウェナッチ市と姉妹都市を締結
10月8日　東英中学校新校舎落成
10月30日　厚目内小・中学校新校舎完成

▼昭和 48 年（1973）
3月16日　浅瀬石川ダム工事事務所発足

▼昭和 49 年（1974）
4月8日　県立黒石商業高校開校
5月17日　黒石運動公園野球場落成

▼昭和 50 年（1975）
1月23日　黒石小学校新校舎落成
7月10日　ほるぷ子ども館開館
8月6日　二度にわたる集中豪雨で千歳
20日　橋・紫明橋が決壊。被害額79億円

▼昭和 51 年（1976）
4月15日　市勤労青少年ホーム開館

▼昭和 52 年（1977）
5月1日　市中央スポーツ館開館
10月1日　天皇陛下来黒

▼昭和 53 年（1978）
10月5日　中郷小学校新校舎落成

▼昭和 54 年（1979）
4月6日　黒石幼稚園が新築移転
5月12日　老人福祉センター完成
秋田雨雀記念館開館
6月22日　浅瀬石川の護岸工事竣工
8月4日　黒森山野営場オープン
9月27日　東北自動車道青森～大鰐弘前インター間開通

▼昭和 56 年（1981）
12月4日　流雪溝供用開始

▼昭和 57 年（1982）
2月27日　上十川小学校新校舎落成
10月14日　黒石市民文化会館、黒石公民館落成

▼昭和 58 年（1983）
5月28日　浅瀬石川ダムの定礎式
6月7日　黒石地区清掃施設組合環境管理センター落成
10月11日　産業会館落成

▼昭和 59 年（1984）
7月1日　市民憲章制定
8月17日　大韓民国永川市と姉妹都市締結
10月30日　黒石運動公園陸上競技場完成
10月31日　国鉄黒石線廃止
11月1日　弘南鉄道黒石線が開業

▼昭和 60 年（1985）
3月2日　牡丹平小学校新校舎落成

▼昭和 61 年（1986）
6月25日　黒石大橋開通
7月19日　国道102号バイパス全線開通

▼昭和 62 年（1987）
2月18日　六郷中学校新校舎落成
10月16日　新千歳橋完成
11月6日　農村環境改善センター『六宝館』落成

▼昭和 63 年（1988）
4月15日　津軽こけし館オープン
6月14日　渋川伝次郎氏を名誉市民に推挙
10月19日　浅瀬石川ダム完成
11月1日　津軽広域水道企業団が給水開始

▼平成 元 年（1989）
2月10日　浅瀬石小学校新校舎落成
4月29日　虹の湖公園オープン
7月28日　黒石運動公園プール完成

11月20日　純金・純銀こけしを津軽こけし館に展示

▼平成 2 年（1990）

10月29日　黒石中学校新校舎完成

▼平成 3 年（1991）

7月23日　二庄内ダム定礎式
7月29日　新黒石病院診療開始
9月28日　大型台風19号が直撃
瞬間最大風速62mを記録し、りんごを中心に被害額65億円

▼平成 4 年（1992）

4月1日　東児童センターオープン
10月27日　北陽小学校新校舎落成

▼平成 5 年（1993）

3月15日　シルバーワークプラザ完成
7月31日　中郷中学校新校舎完成

▼平成 6 年（1994）

4月19日　黒石地区清掃施設組合
粗大ごみ処理施設落成
4月22日　りんごＣＡ貯蔵施設落成
5月20日　北地区児童センター落成
10月1日　市の花木鳥を指定
11月24日　新黒石郵便局開局

▼平成 7 年（1995）

6月30日　新消防庁舎落成
10月12日　二庄内ダム完工式
10月19日　落合大橋開通
10月27日　国道394号城ヶ倉大橋開通

▼平成 8 年（1996）

4月1日　スポカルイン黒石開館
7月8日　東英小学校新校舎完成

▼平成 9 年（1997）

2月20日　東英小学校新体育館完成
4月15日　横町かぐじ広場オープン
5月9日　運動公園内にある市営球場に夜間照明設備完成
9月29日　皇太子殿下ご夫妻来黒

▼平成 10 年（1998）

2月1日　津軽広域連合設立
4月1日　西部地区センターオープン
市立第５保育所閉所
弘南鉄道黒石線
（黒石・川部間）廃止
4月7日　追子野木小学校新校舎完成
12月1日　回遊バスぷらっと号運行開始

▼平成 11 年（1999）

3月1日　黒石病院に脳神経外科病棟整備

▼平成 12 年（2000）

4月21日　津軽伝承工芸館オープン
7月2日　六郷小学校新校舎落成
10月13日　国道102号と394号バイパス開通

▼平成 13 年（2001）

3月31日　市立第４・第６の両保育所が閉所
9月8日　全国初の
「火の見やぐらサミット」開催
12月14日　「くろいし男女共同参画推進プラン」を策定

▼平成 14 年（2002）

2月21日　巨大雪だるま制作・高さ31.425mで日本一の記録達成
10月31日　14市町村で任意の津軽南合併協議会を設置

▼平成 15 年（2003）

4月1日　姥懐霊園火葬場が操業開始
11月7日　12市町村で津軽南地域合併法定協議会を設置

▼平成 16 年（2004）

4月1日　上十川公民館オープン
7月31日　12市町村で津軽南地域合併法定協議会が正式解散
11月5日　国道102号弘前・黒石ＩＣ連絡道路完成

▼平成 17 年（2005）

3月10日　黒石東小学校新校舎完成

▼平成 19 年（2007）

2月28日　黒石東小学校新体育館完成
3月31日　大川原小学校閉校
12月21日　純金・純銀こけしを売却

▼平成 20 年（2008）

1月1日　家庭ごみが有料化
3月31日　厚目内小中学校閉校
4月1日　市民文化会館・黒石公民館休館
スポカルイン黒石図書コーナーオープン

▼平成 21 年（2009）

3月31日　県農業大学校廃校

▼平成 22 年（2010）

5月24日　黒石病院ガンマナイフセンター落成
11月17日　高さ4.21mのジャンボこけし完成

▼平成 23 年（2011）

10月8日　「全国やきそばサミットin
9日　黒石」を開催

▼平成 25 年（2013）

1月24日　豪雪対策本部を設置
２月26日には過去最高の積雪深180cmを記録
7月1日　消防広域化スタート

▼平成 26 年（2014）

1月6日　市社会福祉センター
『きずな』オープン
9月24日　天皇・皇后両陛下来黒

▼平成 27 年（2015）

2月21日　市が「健康都市」を宣言
7月16日　松の湯交流館オープン

▼平成 28 年（2016）

10月1日　市手話言語条例を施行

▼平成 29 年（2017）

3月31日　黒石幼稚園閉園
黒石中学校、六郷中学校、東英中学校閉校
4月1日　黒石中学校開校
勤労青少年ホームと中央スポーツ館が統合し、市スポーツ交流センターに名称変更

▼平成 30 年（2018）

3月31日　六郷小学校、上十川小学校閉校
4月1日　六郷小学校開校

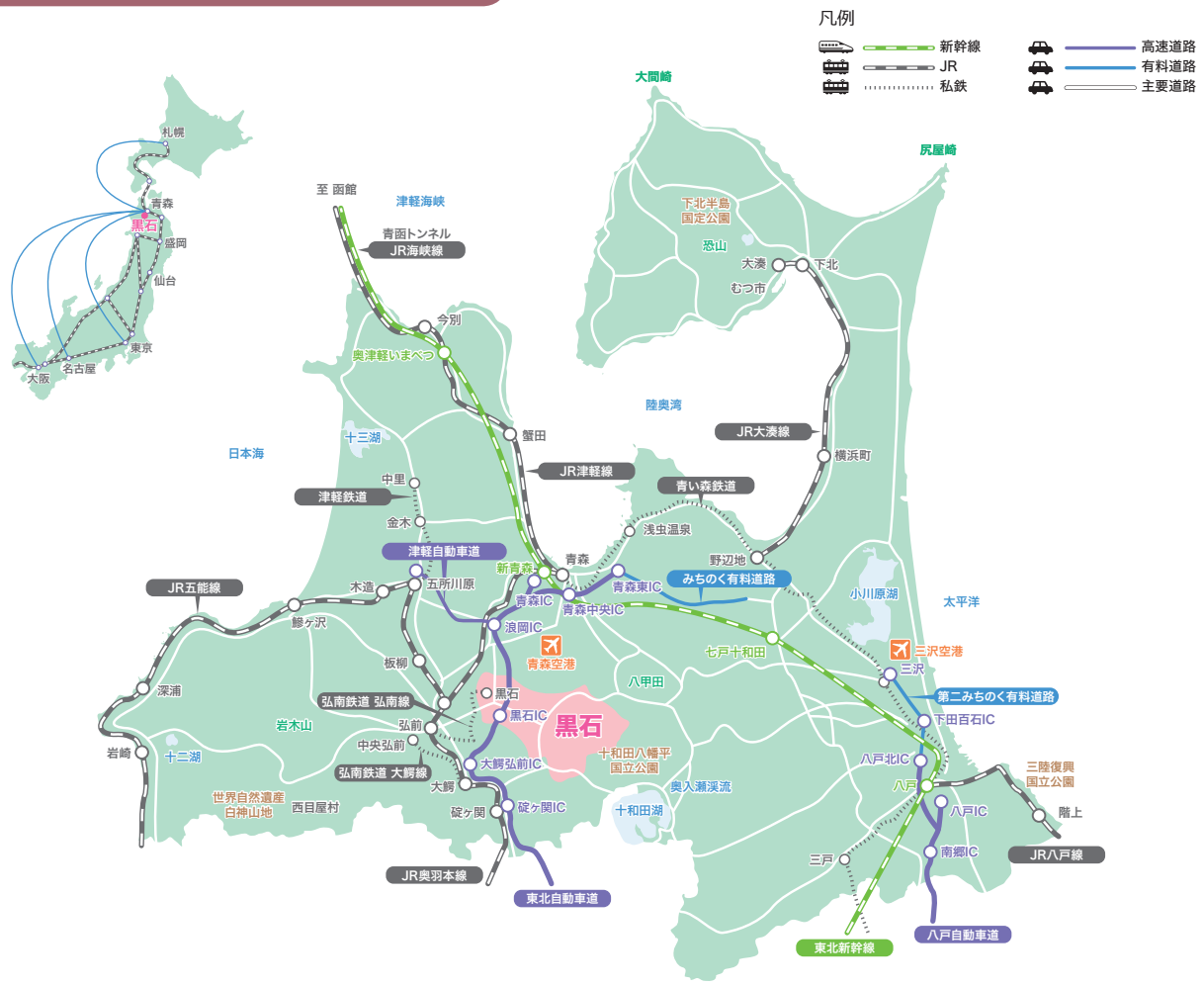
▼平成 31 年・令和元年（2019）

3月31日　南黒地方福祉事務組合が解散

▼令和 2 年（2020）

3月31日　黒石小学校、中郷小学校、北陽小学校、牡丹平小学校、浅瀬石小学校、追子野木小学校、黒石東小学校閉校
4月1日　黒石小学校、黒石東小学校開校
市内全小学校で完全給食を実施
市が金平成園の管理・運営を開始

アクセスマップ



県内から▶▶▶

JR新青森駅	約30分	JR弘前駅	乗換	弘南弘前駅	約30分	弘南黒石駅
青森空港	約60分	弘前バスターミナル			約50分	弘南黒石駅前
JR新青森駅南口	約70分					弘南黒石駅前
弘前駅	約30分					弘南黒石駅前
JR新青森駅	約60分（タクシー利用　約8,000～9,000円）					弘南黒石駅前
青森空港	約45分（タクシー利用　約4,500～5,000円）					弘南黒石駅前

※青森空港からの定額タクシーもございます。（黒石市中心街エリアまで4,500円、黒石温泉郷エリアまで6,500円）

県外から▶▶▶

東京駅	約180分	新青森駅	新函館北斗駅	約70分	新青森駅
羽田空港	約80分	青森空港	札幌(新千歳)空港	約50分	青森空港
名古屋(小牧)空港	約90分	青森空港	大阪(伊丹)空港	約100分	青森空港
神戸空港	約100分	青森空港			

2020年 黒石市勢要覧

発　行　黒石市
〒036-0396　青森県黒石市大字市ノ町11-1
TEL 0172-52-2111　FAX 0172-52-6191
ＵＲＬ　http://www.city.kuroishi.aomori.jp/
企　画　黒石市 企画財政部 広報情報システム課
印　刷　有限会社 アイティー

〈表紙〉中野もみじ山